

瀋陽駐在員事務所



瀋陽のバス

「バスは公共交通機関か?!」

瀋陽市の公共交通機関といえば、バスと地下鉄である。このうち、バスは2012年までに265路線まで増やす計画で、市民の足として利便性の向上が期待されている。瀋陽の交通マナーが非常に悪いことはよく知られているが、公共交通機関であるバスのマナーが最悪なものには驚かされる。信号無視、無理な車線変更など、我が物顔で走る姿は日本では想像できないだろう。バスの交通違反に対する専用通報電話があるというもうなずける。時間どおりに来ないのはあたりまえ、時にはバス停をとばすこともある。運転手の賃金は安く、制服もなく、公共の精神もない、嫌々運転しているというのが正直な印象である。運賃は、どこまで乗っても1元。もう少し値上げして、サービス向上に努めていただきたいが、利用者は「より良いサービス」より、「より安い運賃」を求めているからどうしようもない。ちなみに私はバスには乗らない・・・。

正司 毅

(財)日中経済協会北京事務所 札幌経済交流室



【ある意味 iphone よりすごい携帯】

先月、ゴルフをしている時でした。ゴルフケースのフードをポケット代わりにし、そこに中国の携帯と日本の携帯、そしてスターバックスのコーヒーをタンブラーに入れてプレーしていました。するとキャディーさんが「あなたのコーヒーがこぼれている」と言ってきました。見ると結構こぼれています。最初は大した事はないと思っていたのですが、拭いてしばらく経ってもなおりません。ラウンドが終わってもなおりません。結局日中双方の携帯を同時に壊してしまいました。それから小職は急いで携帯を買いに行きました。2台同時に壊したので出来れば1台で済む携帯を買いたかった小職は「日本のSIMカードと中国のSIMカード同時に挿せて、日本語表示もできる携帯はあるか」と店員に聞くと「ある」と。韓国SAMSUNGのこの機種は、なんと本当に上記の要望に応じてくれました。画面には常に2本のアンテナが表示され、日中双方の電波を拾っています。使用の切り替えは横の小さいボタンを一つ押すだけで出来、電話帳は双方のデータが混在、メモリーカードも挿せます。しかし・・・日本語は受信のみで送信は出来ない(書き込めない)、写真等の映像の送受信はできない等多少不自由はありますが、今自分の中ではiphone よりもすごい携帯だと思っています。

中島 康成

TOPICS とぴっくす TOPICS ~in海外~

ユジノサハリンスク駐在員事務所



小型～マルシュルトカ



サハリンの大型バス

「初めての海外赴任で……PART II」

今回は普段利用しているバス通勤の中での話です。

ユジノサハリンスク市の市民の足は公共のバスです。最近では自家用車が増えても、駐車場などの事情もあり、通勤・通学はバスに頼っている様だ。バスの料金は、市内一円 15 ルーブル(約 45 円)と日本に比べ格段に安いのです。

私が約1ヶ月間の経験で知る限りでは、バスの大きさは大・中・小型の3種類あって、大型バスは日本のJRや中央バスぐらいの大きさで、小型になるとワンボックスカーをちょっと大きくした約 10～12 人乗り位のイメージです。私が朝乗車するバス停は幸いにも、始発・終着地点に位置しているので、バスの番号(10・16 番)さえ間違わなければ特段の問題は発生しません。

私が良く利用しているのが小型バスです。これには車掌が居ません。各自乗車したら自分で運転手に 15 ルーブル支払うと言うルールです。私の場合、乗車時間は大体 30 分程度です。日本では、少し“うとうと”するか、本を読む程度の時間が持てます。ところが、ここロシアでは、寝ていたり、本を読んだりしている人は誰もいません。とにかく、寝てられないのです。理由は、バス代は後ろから前へ、前へと手渡しされ、お釣りがあれば今度は運転手から手渡しで後ろへ、後ろへと戻って来るルールになっています。その時に、多少の短い挨拶を交わすことで、ロシア人とのスキンシップが図れて、通勤は私にとって心地良いひと時となっています。

次に、今度は大型バスにチャレンジ。これは車掌が居てバス代を取りに来るので、渡せばいいだけです。チャレンジ初日のこと、始発なので乗客は少なく、私は入口付近の一人乗りシートの席に座り、丁度 15 ルーブル渡したのに、気の強そうな女性の車掌から色々話し掛けられました。何を言われているのかさっぱり分かりません。出発しても私の近くに立ちながら睨んでいるのです。「何か変だ」。違和感に気付いたのは 10 分位経ってからでした。何故か私のシートにだけ座布団が敷いてあるではないか?「しまった!」さすがに鈍感な私でも、もしかして、ここは彼女の専用席?思わず体を丸めて「ごめんね!」と言うつもりが「スパシーバ(ありがとう)」。相手も変な日本人と思ったであろう。その日は、降りる場所もうっかり、気付いた時はドアが閉まってしまい、「ここで降ります」と言うロシア語も分らず、次のバス停まで。今日に限って窓の外は雨。降りる時は、車掌さんに笑顔で「ダスヴィダーニャ(さようなら、またね)」。